



DVは犯罪です。どんな理由があっても許されません。DVを防ぐためには、自分自身を深く見つめ直すことが大切です。

**DVの加害者、被害者にならないために**

DV被害者は、「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖心を持って、「助けてくれる人は誰もいない」といった無気力状態に陥ったりすることがあります。また、これまで地域社会で築いてきた人間関係を失いたくないという思いや、配偶者の収入がなければ生活できないという経済的問題のため、逃げることに踏み切れない人もいます。

**被害者はなぜ逃げられないの？**  
DV被害者は、「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖心を持って、「助けてくれる人は誰もいない」といった無気力状態に陥ったりすることがあります。また、これまで地域社会で築いてきた人間関係を失いたくないという思いや、配偶者の収入がなければ生活できないという経済的問題のため、逃げることに踏み切れない人もいます。

一人です。「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」といった固定観念にとらわれず、互いの個性や人格を尊重できる関係を築いていきましょう。

**一人で悩まず相談しましょう**

全国のDV相談件数は年間8万件を超えています。DVは決して特殊な問題ではありません。DVの不安を感じたり、被害を受けたりにしている人は、一人で悩まずに相談機関に相談してください。

**□DV相談ナビ(内閣府)**  
自動音声により、最寄りの相談窓口を案内するサービスです。相談窓口で電話を転送し、そのまま相談することもできます。  
☎0570-055210

**□市役所婦人相談窓口(こども課)**  
☎24-2111(内線517)

**□配偶者暴力相談支援センター(県南広域振興局花巻保健福祉環境センター)**  
☎22-4921

**【問い合わせ】**  
本庁市民協働参画課  
☎24-2111内線457

# STOP THE 暴力 女性に対する暴力を許さない！



内閣府「女性に対する暴力根絶のためのシンポジウム」



11月12日～25日は女性に対する暴力をなくす運動期間です。暴力は、人権を著しく侵害するものであり決して許されるものではありません。この運動期間をきっかけに、女性に対する暴力について考え、暴力のない社会づくりを進めましょう。

**ドメスティック・バイオレンス(DV)とは？**

配偶者や恋人などの親密な関係にある、またはあった人から受ける暴力をドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。

暴力には、殴る、蹴るといった身体的な暴力のほか、次に掲げるような精神的・性的・経済的・社会的な暴力など、さまざまなものが含まれます。

**□精神的なもの**

大声で怒鳴る、ののしりばかりにする、脅迫する、無視するなど

**□性的なもの**

性行為の強要、避妊に協力しない、中絶の強要、無理にポルノ画像を見せるなど

**□経済的のもの**

生活費を渡さない・使わせない、借金を強要する、働きに出ることを禁止するなど

**□社会的なもの**

自由に外出させない、交友関係を制限する、携帯電話の履歴・メールを細かくチェックするなど

**身近に起きているデートDV**

DVは、大人だけに起こること

ではありません。恋愛関係にある若い二人の間でも起きています。これを「デートDV」といいます。デートDVによる被害も、身体的暴力のほか、相手を思いどおりに支配しようとする態度や行為を含みます。

**なぜDVは起こるの？**

DV被害は、多くの場合女性が被害者です。その背景には、「妻は夫に従うもの」などといった社会通念や、妻に収入が少ない場合が多いといった男女の経済的格差など、社会の構造的な問題があります。

また、デートDVは、親密な交際関係の中で起こるので、その行為が暴力だと気付かない場合があります。「相手が怒るのは自分が悪いから」「束縛されるのは愛されている証拠」などと勘違いしていませんか。これを恋愛だと思込むことが問題を深刻化させています。

**DV被害の現状**

内閣府が実施した「男女間における暴力に関する調査」によると、配偶者から身体的暴行、心理的攻

## 男女共同参画推進ワークショップ

受講生募集

市では、平成23年度より毎年、男女共同参画推進ワークショップを開催しています。

昨年は、女性役員の選出に苦難する様子を演じた寸劇を見た上で、みんなが生き生きと暮らせる地域・家庭について話し合いました。

ことしは、若い世代を活動に引き込むことに成功した例、失敗した例を参考に、将来、地域で活躍していく担い手の育成と、誰もが個性と能力を發揮できる環境づくりについて、男女共同参画の視点から考えます。皆さんも自分の身近な地域や家庭の課題を見つめ直し、解決する方法を考えてみませんか。

■テーマ 「私たちの思いを未来のリーダーにつなげよう～幅広い年齢層がともに活動できる地域社会をめざして」

■講師 岩手大学人文社会科学部 海妻径子准教授

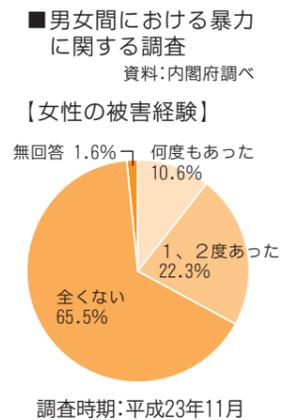
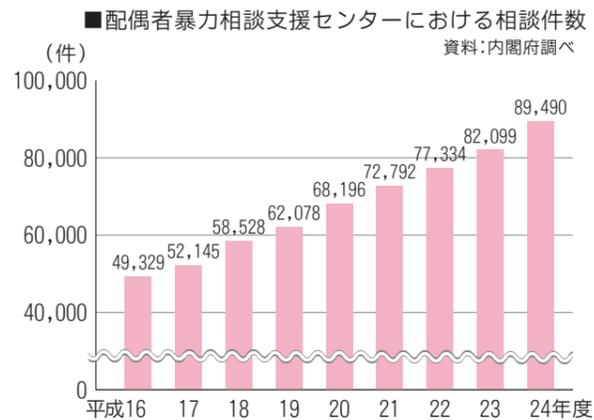
■日時 12月6日(金)、午後1時30分～4時

■会場 なはんプラザ

- 定員 40人(先着順)
- 参加料 無料
- 申込開始日 11月6日(水)
- その他 当日は、無料保育(1歳児以上)を実施します。希望する方は11月22日(金)までに申し込みください
- 問い合わせ・申し込み 本庁市民協働参画課(☎24-2111内線457 ✉kyodo-danjo@city.hanamaki.iwate.jp)



昨年のワークショップの様子



撃、性的強要のいずれかを受けたことがあると答えた女性は、「何度もあった」「1、2度あった」を合わせて32.9%にも上ります。また、全国の配偶者暴力相談支援センターに寄せられた相談件数は、この数年増加の一途をたどっています。